

官営製鐵所と筑豊炭田

1896 年、新しく建設される官営製鐵所の候補地調査が行われ、各地で熱心な誘致合戦が行われた結果、1897 年に八幡が選ばれました。決定にはいくつかの要因がありましたが、八幡の後背地にある筑豊炭田の豊富な石炭資源の存在が大きな理由の一つと言われています。

製鐵所の操業当初は使用する石炭全体の 70%が筑豊炭で賄われました。また、製鐵の原料となる鉄鉱石の供給を中国から受ける代わりに石炭を供給する等、筑豊炭は製鐵所の操業に重要な役割を果たしました。

「明治日本の産業革命遺産」の推薦にあたり、筑豊炭田の施設も世界遺産の構成資産候補として調査を行いました。調査及び検討の結果、構成資産候補には選ばれませんでした。調査にあたった国内外の専門家からは筑豊炭田が日本の近代化に貢献した歴史的価値について一定の評価を得ています。

また、世界遺産登録の取組みの中で山本作兵衛翁の炭坑記録画等「山本作兵衛コレクション」の価値が見い出され、2011 年、日本で初めての「世界の記憶」(世界記憶遺産)に登録されました。

関連する筑豊炭田の遺産



【田川】三井田川鉱業所伊田坑跡

第一竪坑槽／汽罐場第一・第二煙突

筑豊炭田における三井の主力炭坑です。竪坑は、第一竪坑が 361.8m、第二竪坑が 362.4m あり、完成当時には三菱方城炭鉱(福智町)、製鐵二瀬出張所中央坑(飯塚市)と共に「日本三大竪坑」と称され、深部採炭時代の到来を告げる象徴的な炭坑でした。

また、汽罐場の煙突はその高さから「あんまり煙突が高いので～」と炭坑節の一節に歌われています。

周辺は、筑豊炭田遺跡群として国指定史跡となっています。

■お問い合わせ先 田川市石炭・歴史博物館 TEL・FAX 0947-44-5745
〒825-0002 田川市大字伊田 2734 番地 1

【飯塚】旧伊藤伝右衛門邸

筑豊の炭鉱王の一人、伊藤伝右衛門の旧宅です。伝右衛門の夫人であり、歌人としても著名な柳原白蓮が起居した建物としても知られています。豪壮な近代和風建築で庭園は 2011 年には国の名勝に指定されています。往時の筑豊炭田の隆盛を偲ぶ貴重な炭鉱関連の遺産です。

■お問い合わせ先 旧伊藤伝右衛門邸 TEL・FAX 0948-22-9700
飯塚市教育委員会教育部文化課(飯塚市歴史資料館)
TEL・FAX 0948-25-2930
〒820-0011 飯塚市柏の森 959 番地 1



写真提供:飯塚市教育委員会

山本作兵衛コレクション



©Yamamoto Family
田川市石炭・歴史博物館所蔵

山本作兵衛翁の炭坑記録画等「山本作兵衛コレクション」(炭坑記録画、日記、雑記帳、原稿類)は、明治時代中期から 1950 年代までの筑豊の炭坑における労働や生活が描かれ、日本の発展状況を裏付ける私的記録であり、また、世界的に歴史的な重要性が高い時代を実際に生きた一人の人間の視点に基づく真正な記録であるとして、ユネスコの「世界の記憶」(世界記憶遺産)に登録されました。

炭坑記録画は、田川市石炭・歴史博物館で観ることができます。

ユネスコの「世界の記憶」(世界記憶遺産)事業は、世界の重要な記憶遺産(直筆の文書、書籍、ポスター、絵、地図、音楽、写真、映画等)の保護と活用を目的に、1992 年に開始されたプログラムです。

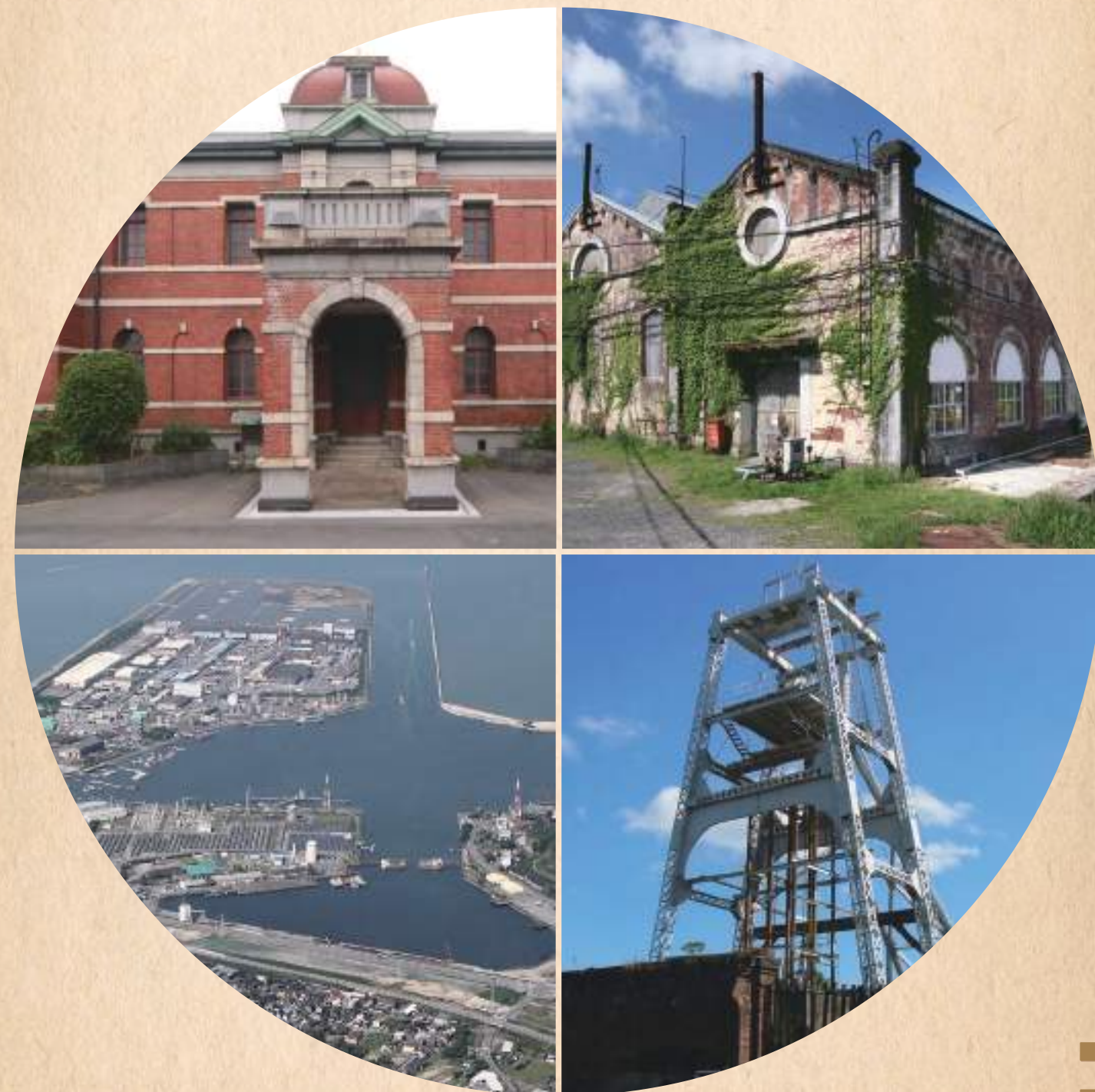
主な登録例として、「人権宣言」(フランス)・「ゲーテの直筆文学作品、日記、手紙等」(ドイツ)・「アンデルセン・コレクション」(デンマーク)等があります。



世界遺産

明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution
— Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining —



問い合わせ先



Instagram



Facebook



Twitter

「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録5周年を記念して、SNSページを開設しました!イベントや観光情報を発信しています!!

- 福岡県人づくり・県民生活部文化振興課九州国立博物館・世界遺産室 〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号 TEL:092-643-3162 FAX:092-643-3163
- 北九州市企画調整局政策部世界遺産課 〒803-8501 北九州市小倉区城内1番1号 TEL:093-582-2922 FAX:093-582-2176
- 大牟田市企画総務部世界遺産・文化財室 〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地 TEL:0944-41-2515 FAX:0944-41-2552
- 遠賀川水源ポンプ室インフォメーションセンター(中間市) 〒809-0001 中間市垣生660-1 TEL:093-245-4665 FAX:093-244-1113



世界遺産(平成27年7月登録)

明治日本の産業革命遺産

製鉄・製鋼、造船、石炭産業

日本は、19世紀の半ばから20世紀の初頭にかけて、工業立国の土台を構築し、製鉄・製鋼、造船、石炭産業という重工業分野において、急速な産業化を成し遂げました。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤で鉄製大砲鑄造への挑戦や洋式船の模倣から始まり、次に西洋技術の導入が行われ、技術の運用による専用知識の習得を行いました。明治の後期には国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋の科学技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように、改善、改良を加え、産業経済の基礎を築きました。

日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、50年余りで自らの手で産業化を成就しました。

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、この世界史における類いまれな産業化の局面を証言する遺産群であり、8県11市に所在する23の構成資産全体で世界遺産としての顕著な普遍的価値を有しています。



写真提供 ※1、2 三菱重工業㈱ ※3 日本製鉄㈱九州製鉄所 ※2、3 敷地内は公開されていません。

評価基準の適用

評価基準(ii)

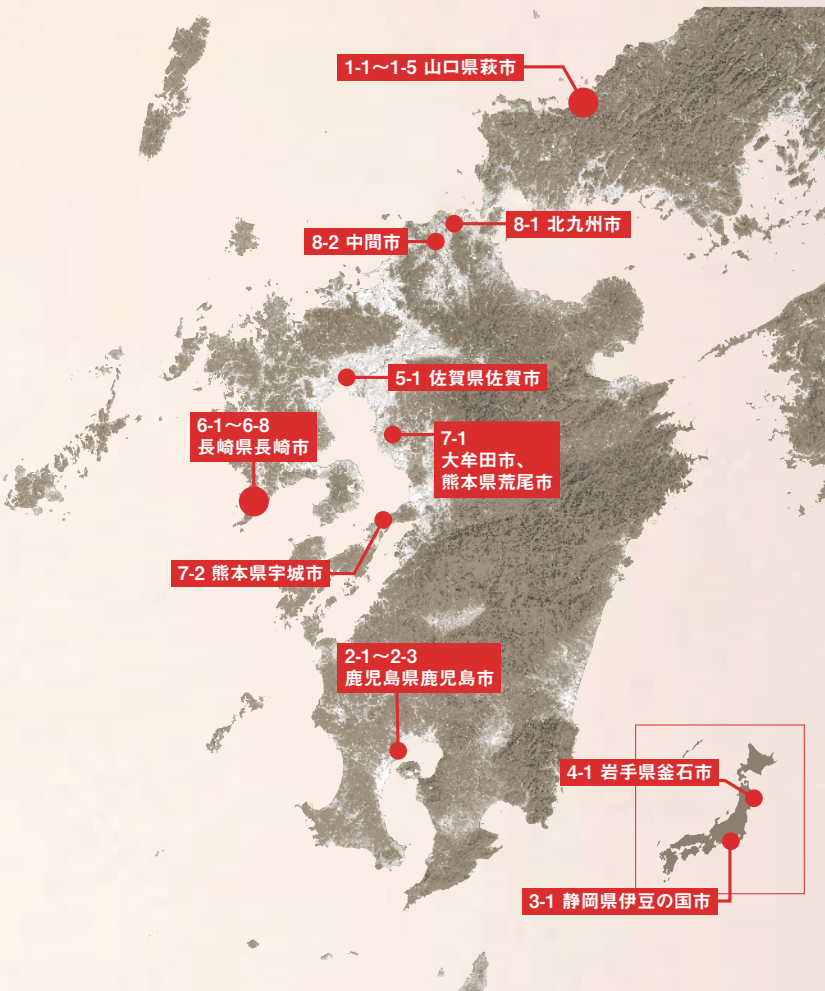
「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀の半ばから20世紀の初頭にかけ、産業化が進む西洋諸国から技術移転を受け、技術の交流により変化を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも希有なことである。西洋からの技術の伝播が伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、後に日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準(iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術的集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的／地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これらの一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3産業分野において代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

「明治日本の産業革命遺産」MAP

エリア1 萩	1-1	萩反射炉
	1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
	1-3	大板山たたら製鉄遺跡
	1-4	萩城下町
	1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2-1	旧集成館
	2-2	寺山炭窯跡
	2-3	関吉の疎水溝
エリア3 ひまわり 萩山	3-1	萩山反射炉
エリア4 釜石	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5-1	三重津海軍所跡
	6-1	小菅修船場跡
	6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
	6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
	6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
	6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	6-6	高島炭坑
	6-7	端島炭坑
エリア6 長崎	6-8	旧グラバー住宅
	7-1	三池炭鉱・三池港 (宮原坑、万田坑、 専用鉄道敷跡、三池港) 三角西港
エリア7 三池	7-2	三角西港
	8-1	官営八幡製鐵所 (日本事務所、修繕工場、 旧鍛冶工場)
エリア8 八幡	8-2	遠賀川水源ポンプ室



3つの産業分野の時系列に沿った発展(1850年代～1910年)

1850年代～1910年にかけての重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における産業化の歩み

時代	1850年代 ● 1910年		
	試行錯誤の挑戦 >>	西洋の科学技術の導入 >>	産業基盤の確立
製鉄・製鋼	エリア2 鹿児島 2-1 旧集成館 2-2 寺山炭窯跡 2-3 関吉の疎水溝		エリア8 八幡 8-1 官営八幡製鐵所 8-2 遠賀川水源ポンプ室
	エリア3 萩山 3-1 萩山反射炉		
	エリア4 釜石 4-1 橋野鉄鉱山		
	エリア1 萩 1-1 萩反射炉 1-2 恵美須ヶ鼻造船所跡 1-3 大板山たたら製鉄遺跡 1-4 萩城下町 1-5 松下村塾	エリア6 長崎 6-1 小菅修船場跡	
造船	エリア2 鹿児島 2-1 旧集成館 2-3 関吉の疎水溝		エリア6 長崎 三菱長崎造船所 6-2 第三船渠 6-3 ジャイアント・カンチレバークレーン 6-4 旧木型場 6-5 占勝閣
	エリア5 佐賀 5-1 三重津海軍所跡	エリア6 長崎 6-8 旧グラバー住宅	
石炭産業		エリア6 長崎 6-6 高島炭坑	エリア6 長崎 6-7 端島炭坑
		エリア7 三池 7-2 三角西港	エリア7 三池 7-1 三池炭鉱・三池港

{ 三池炭鉱・三池港 } *Miike Coal Mine and Miike Port*

日本一の出炭量を誇った近代化の象徴



1 三池炭鉱宮原坑〈国指定重要文化財・史跡〉

三池炭鉱宮原坑は、1898(明治31)年から1931(昭和6)年まで年間40～50万トンを出炭した三池炭鉱の坑口の一つです。昭和5年まで三池集治監(今の刑務所)に収監されていた囚人たちが採炭作業に従事していました。現在は、1901(明治34)年に完成した第二堅坑櫓、巻揚機室、旧扇風機室などが良好に保存されており、石炭の採掘から選炭、運搬の工程のシステムを知ることができます。



2 三池炭鉱万田坑〈国指定重要文化財・史跡〉

熊本県荒尾市と福岡県大牟田市にまたがる三池炭鉱万田坑は、三池炭鉱宮原坑に続き開削された三池炭鉱の主力坑です。1902(明治35)年から1951(昭和26)年まで採炭が行われていました。現在、第二堅坑櫓、巻揚機室、旧扇風機室などが良好に保存されており、石炭の採掘から選炭、運搬の工程のシステムを知ることができます。



3 三池炭鉱専用鉄道敷跡〈国指定史跡〉〈景観重要建造物〉

三池炭鉱専用鉄道は、各坑口から産出した石炭や各坑口で使用する資材、石炭化学コンビナートを構成する各工場の製品などを輸送するために敷設されました。最盛期には、総延長が約150kmにも及び、各坑口で働く鉱員など通勤者を運ぶ役割も担っていました。現在は、不要線路のほとんどは撤去されましたが、路床や煉瓦造りの当時の橋脚などの構造物を見ることができます。



4 三池港

三池港は、干満差の激しい有明海に面する三池の地から石炭を直接大型船で搬出するために築かれました。海砂から港と航路を守るために作られた長大な防砂堤、潮待ちの為の内港、干満に関わらず大型船の接岸を可能にするための閘門を有する船渠が計画的に配置され、上空から見た形がハチドリのように見える優美な姿が特徴です。1908(明治41)年の開港当時の姿を現在まで良好に留める現役の港湾です。

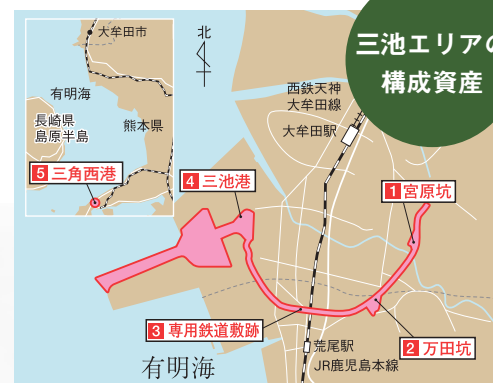
三池炭鉱・三池港発展の立役者



石炭山の永久ということはありはせぬ。築港をやれば、そこにまた産業を興すことができる。築港をしておけば、いくらか百年の基礎になる。

團 琢磨 (1858～1932)

福岡藩生まれ。1871年に岩倉使節団に同行して渡米し、マサチューセッツ工科大学で鉱山学を学びました。1884年に工部省に入省し、官営三池炭山局に勤務。1889年に三池炭鉱社の事務長に就任し、三池炭鉱の開発にあたりました。勝立、宮原、万田など各坑の開削や三池港築港など三池炭鉱の近代化を推進した後、三井合名会社理事長や日本工業倶楽部初代理事を務めました。



三池エリアの構成資産



5 三角西港〈国指定重要文化財〉〈国選定重要文化的景観〉

熊本県宇城市の三角西港は、西南戦争で荒廃した熊本県の復興を目的に、熊本県唯一の大型船が着岸できる港として1887(明治20)年に開港しました。三池炭鉱の石炭は、三池港が完成するまでここを経由して上海などへ輸出されました。現在も築港当時の姿を留めており、明治期の港が良好な形で現存しています。



三池港(閘門)



三池港(旧長崎税関三池税関支署)〈国指定史跡〉

官営八幡製鐵所 *The Imperial Steel Works, Japan*

遠賀川水源地ポンプ室 *Onga River Pumping Station*

日本の近代製鉄を担ってきた世紀を超えた遺産



1 官営八幡製鐵所旧本事務所〈景観重要建造物〉

1899(明治32)年、官営八幡製鐵所の創業2年前に建設された日本と西欧の建築様式を併せ持った建物です。長官室、顧問技師室、外国人技師室などがある製鐵所の中核施設でした。1922(大正11)年までは、本事務所として使用されていましたが、その後、研究所や検査部門などに利用されました。【非公開施設】



2 官営八幡製鐵所修繕工場〈景観重要建造物〉

1900(明治33)年、ドイツの製鉄会社、グーテホフマックスヒュッテ(GHH.)社によって建設された鉄骨建築物です。当時の製鐵所には、製作加工や機械の組立、修繕を行う工場群があり、ここはその中心的な施設でした。現存する日本で最も古い鉄骨構造の建物で、現在でも修繕工場として使用されています。建物の壁の一部には赤煉瓦が残っており、創業当時の面影が残っています。【非公開施設】



3 官営八幡製鐵所旧鍛冶工場〈景観重要建造物〉

1900(明治33)年、修繕工場と同じくGHH.社が設計、鋼材加工、仮組立を行った後、国内で建設された鉄骨建築物です。屋根はドイツ式の丸屋根形式です。鍛冶工場では、高温に熱した鉄を大型のプレス機械でたたきながら形を整え、機械据付け用の金物や大型の工具を造っていました。現在は、創業以来製鐵所が保有する古文書、写真など、約4万点の史料を保存する史料室となっています。【非公開施設】



4 遠賀川水源地ポンプ室〈景観重要建造物〉

1906(明治39)年、鋼材生産量をそれまでの2倍の18万トンとする第一次拡張計画が立案され、更なる大量の水が必要となり、遠賀川から製鐵所まで水を送るため、遠賀川水源地ポンプ室が1909(明治42)年に建設され、1910(明治43)年に操業を開始しました。操業当時は、蒸気ポンプを使用していましたが、1950年代に電動化されました。建物は今も当時のまま使用されています。【非公開施設】

官営
八幡製鐵所
発展の
立役者



鉄は工業の母、護国の基礎なり。
製鉄の業起こらざれば万業振るわず。
野呂 景義(1854~1923)

1885年、ロンドン大学に入学し、機械工学と電気工学を学び、翌年からドイツ・フライベルク鉱山大学で鉄冶金学を学びました。帰国後、帝国大学教授兼農商務技師として、釜石の田中製鐵所など各地の製鉄・鉱山の現場を訪れ技術指導を行い、1894年釜石において我が国初のコークスによる高炉操業に成功しました。創業当初の官営八幡製鐵所は、溶鉱炉などの不調により一時操業停止に追い込まれましたが、顧問として採用された野呂の改善により操業を再開し、日本の鉄鋼技術自立への道が拓かれました。

八幡エリアの
構成資産



修繕工場内部(現状)



遠賀川水源地ポンプ室外観(現状)



修繕工場内部(1910年)



遠賀川水源地ポンプ室外観(1910年)



北九州市にあります 中間市にあります



製鐵所と旧本事務所(1912年)